

# DPCデータによる病院指標（平成26年度）

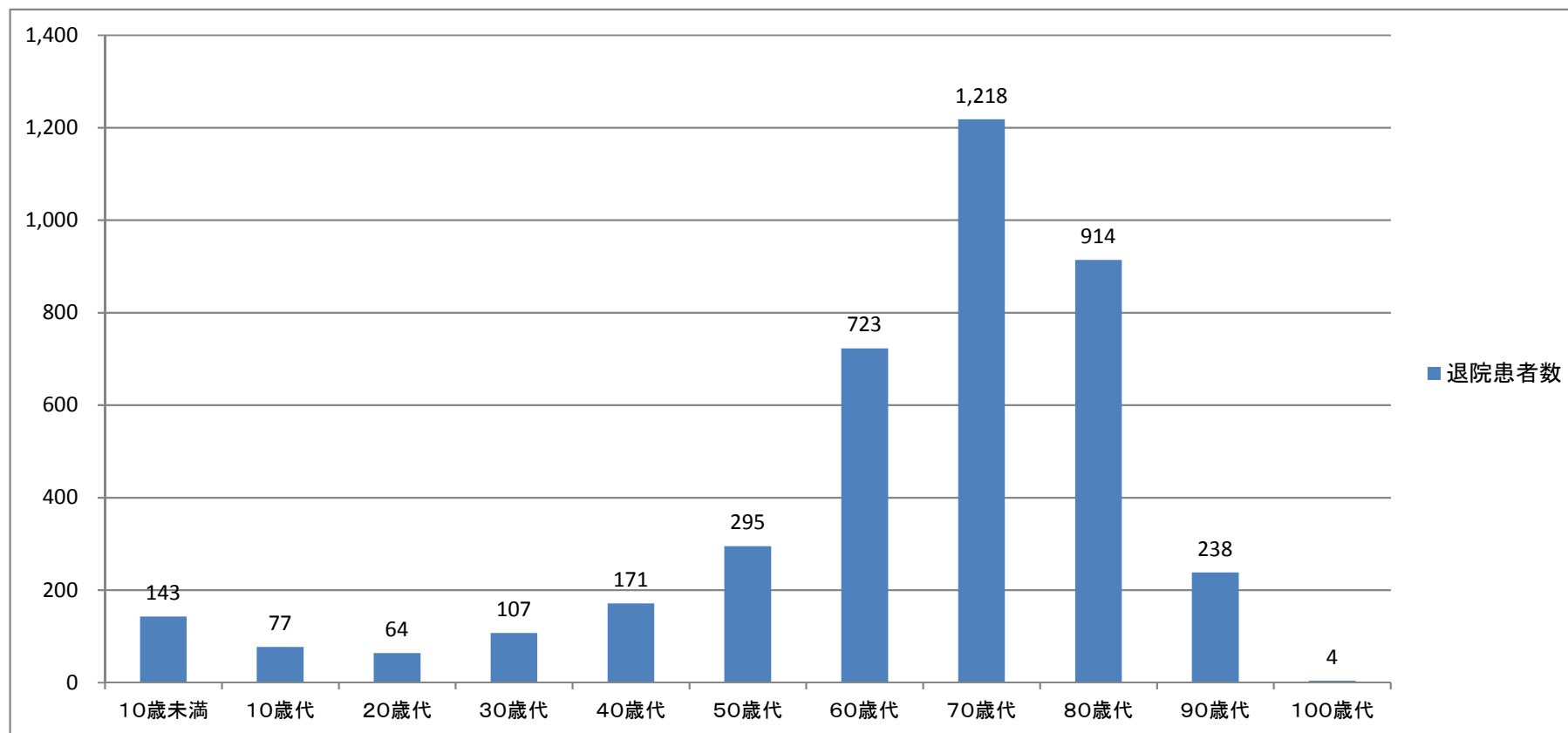
## （指標の項目）

- ①年齢階層別退院患者数
- ②診療科別症例数トップ3
- ③初発5大癌の病期分類別ならびに再発患者数
- ④成人市中肺炎の重症度別患者数
- ⑤脳梗塞のICD-10別症例数
- ⑥診療科別主要手術の術前、術後日数症例数トップ3
- ⑦その他

### （全体の集計方法と定義）

- ・平成26年度（平成26年4月1日～平成27年3月31日）までに退院された患者さんが対象です。
- ・医療保険を使用した患者さんのみ対象とし、自動車賠償責任保険や労災保険、自費等は含めません。
- ・歯科治療のため入院された患者さんは対象としません。
- ・回復期リハビリテーション病棟、緩和ケア病棟のみに入院し一般病棟を一度も使用しなかった患者さんは対象しません。
- ・同一疾患の7日以内の再入院で支払いが一連になった症例は初回の入院日から最終的な退院日までを一症例として数えています。
- ・一般病棟からその他病棟（回復期リハビリテーション病棟、緩和ケア病棟）へ転棟した症例は、入院日から退院日までを一症例として数えています。
- ・年齢は、入院日時点の年齢を基準としています。
- ・この指標は、病院指標の作成と公開（厚生労働省・DPC評価分科会：平成26年5月14日参考資料）に準じて作成しています。

# ①年齢階層別退院患者数



## I 定義

①集計期間に退院した患者さんの年齢階級別(10歳刻み)患者数です。(ただし、入院から退院まで回復期リハビリテーション病棟、緩和ケア病棟に入院していた患者さんは除きます。)

②年齢は、入院した時点での年齢で集計しています。

## II 解説

幅広い年齢層の患者さんにご利用いただいておりますが、70歳代が一番多く全体の約3割を占めています。60歳以上の患者の割合が全体の7割を超え、地域社会の高齢化を反映しています。

## ②診療科別症例数トップ3

### (内科)

No.	DPCコード	DPC名称	症例数	診療科症例に占める割合	平均在院日数	全国平均在院日数(※)	転院率	平均年齢
1	040080x099x0xx	肺炎、急性気管支炎、急性細気管支炎 手術なし 手術・処置等2なし	122	16.3%	19.6	15.1	4.9%	74.7
2	040081xx99x00x	誤嚥性肺炎 手術なし 手術・処置等2なし 副傷病なし	78	10.4%	29.8	23.0	17.9%	82.5
3	110310xx99xxxx	腎臓または尿路の感染症 手術なし	33	4.4%	20.0	12.8	0.0%	80.0

### (消化器科)

No.	DPCコード	DPC名称	症例数	診療科症例に占める割合	平均在院日数	全国平均在院日数(※)	転院率	平均年齢
1	060100xx03xx0x	小腸大腸の良性疾患(良性腫瘍を含む。)内視鏡的消化管止血術等 副傷病なし	224	27.3%	2.2	-	0.0%	68.2
2	060340xx03x00x	胆管(肝内外)結石、胆管炎 限局性腹腔膿瘍手術等 手術・処置等2なし 副傷病なし	29	3.5%	14.0	12.0	3.4%	75.2
3	060102xx99xxxx	穿孔または膿瘍を伴わない憩室性疾患 手術なし	27	3.3%	8.0	8.1	0.0%	67.2

### (循環器科)

No.	DPCコード	DPC名称	症例数	診療科症例に占める割合	平均在院日数	全国平均在院日数(※)	転院率	平均年齢
1	050050xx99100x	狭心症、慢性虚血性心疾患 手術なし 手術・処置等1-1あり 手術・処置等2なし 副傷病なし	64	22.6%	2.3	3.1	0.0%	68.6
2	050130xx99000x	心不全 手術なし 手術・処置等1なし 手術・処置等2なし 副傷病なし	37	13.1%	24.6	19.1	10.8%	81.2
3	050050xx0200xx	狭心症、慢性虚血性心疾患 経皮的冠動脈形成術等なし、1、2あり 手術・処置等2なし	33	11.7%	4.7	5.1	3.0%	71.3

### (小児科)

No.	DPCコード	DPC名称	症例数	診療科症例に占める割合	平均在院日数	全国平均在院日数(※)	転院率	平均年齢
1	040100xxxxx00x	喘息 手術・処置等2なし 副傷病なし	42	27.6%	6.3	6.4	0.0%	2.6
2	100380xxxxxxxx	体液量減少症	32	21.1%	3.3	9.8	0.0%	5.4
3	150010xxxxx0xx	ウイルス性腸炎 手術・処置等2なし	18	11.8%	2.9	5.6	0.0%	7.2

**(外科)**

No.	DPCコード	DPC名称	症例数	診療科症例に占める割合	平均在院日数	全国平均在院日数(※)	転院率	平均年齢
1	060040xx99x60x	直腸肛門(直腸S状部から肛門)の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等2-6あり 副傷病なし	142	21.4%	3.0	4.5	0.0%	65.9
2	060160x002xx0x	鼠径ヘルニア(15歳以上)	71	10.7%	3.2	5.6	0.0%	71.2
3	060035xx99x50x	結腸(虫垂を含む。)の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等2-5あり 副傷病なし	63	9.5%	3.0	4.5	0.0%	74.3

**(整形外科)**

No.	DPCコード	DPC名称	症例数	診療科症例に占める割合	平均在院日数	全国平均在院日数(※)	転院率	平均年齢
1	160800xx01xxxx	股関節大腿近位骨折 人工骨頭挿入術 肩、股等	75	27.7%	30.1	30.5	10.7%	85.1
2	160690xx99xx0x	胸椎、腰椎以下骨折損傷(胸・腰椎損傷を含む。) 手術なし 副傷病なし	36	13.3%	23.5	23.0	8.3%	77.1
3	160980xx99x0xx	骨盤損傷 手術なし 手術・処置等2なし	14	5.2%	30.6	22.6	14.3%	84.1

**(脳神経外科)**

No.	DPCコード	DPC名称	症例数	診療科症例に占める割合	平均在院日数	全国平均在院日数(※)	転院率	平均年齢
1	010060x099030x	脳梗塞 手術なし 手術・処置等1なし 手術・処置等2-3あり 副傷病なし	45	15.5%	21.1	19.2	11.1%	73.9
2	160100xx99x00x	頭蓋・頭蓋内損傷 手術なし 手術・処置等2なし 副傷病なし	29	10.0%	10.3	8.0	6.9%	49.1
3	010060x099020x	脳梗塞 手術なし 手術・処置等1なし 手術・処置等2-2あり 副傷病なし	28	9.7%	20.5	17.3	17.9%	79.2

**(眼科)**

No.	DPCコード	DPC名称	症例数	診療科症例に占める割合	平均在院日数	全国平均在院日数(※)	転院率	平均年齢
1	020110xx97xxx0	白内障、水晶体の疾患 手術あり 片眼	243	93.8%	3.0	6.4	0.0%	77.9
2	020110xx97xxx1	白内障、水晶体の疾患 手術あり 両眼	13	5.0%	5.4	3.2	0.0%	74.8

**(耳鼻科)**

No.	DPCコード	DPC名称	症例数	診療科症例に占める割合	平均在院日数	全国平均在院日数(※)	転院率	平均年齢
1	030240xx99xxxx	扁桃周囲膿瘍、急性扁桃炎、急性咽頭喉頭炎 手術なし	12	22.6%	5.3	5.5	0.0%	44.3
2	030400xx99xxxx	前庭機能障害 手術なし	10	18.9%	7.2	5.5	0.0%	72.9

**(皮膚科)**

No.	DPCコード	DPC名称	症例数	診療科症例に占める割合	平均在院日数	全国平均在院日数(※)	転院率	平均年齢
1	080020xxxxxxxx	帯状疱疹	16	15.7%	7.7	9.2	0.0%	70.9
2	080011xx99xxxx	急性膿皮症 手術なし	14	13.7%	10.4	12.1	7.1%	68.0
3	070010xx970xxx	骨軟部の良性腫瘍(脊椎脊髄を除く。)その他の手術あり 手術・処置等1なし	12	11.8%	4.3	9.1	0.0%	56.3

**(泌尿器科)**

No.	DPCコード	DPC名称	症例数	診療科症例に占める割合	平均在院日数	全国平均在院日数(※)	転院率	平均年齢
1	110080xx991xxx	前立腺の悪性腫瘍	47	22.3%	3.0	2.8	0.0%	71.1
2	110070xx0200xx	膀胱腫瘍 膀胱悪性腫瘍手術 経尿道的手術 手術・処置等1なし 手術・処置等2なし	32	15.2%	5.6	8.0	0.0%	71.7
3	180040xx99x0xx	手術・処置等の合併症 手術なし 手術・処置等2なし	10	4.7%	5.3	-	0.0%	81.3

**I 定義及び表の説明**

全国平均在院日数(※)は、平成25年度のⅢ群病院の全国平均在院日数を掲載しています。  
DPC病院は厚生労働省により3つの群に分けられており、大学病院本院がⅠ群、大学病院本院の機能に準ずる病院がⅡ群、Ⅰ・Ⅱ群以外の病院がⅢ群となっています。  
トップ3が10件以上ある診療科のみ掲載の対象としています。リハビリテーション科・緩和ケア科は診断群分類での請求対象外のため掲載対象外としています。

### ③初発5大癌の病期分類別ならびに再発患者数

初・再 部位	初発の病期分類						再発	患者数合計
	0	I	II	III	IV	不明		
胃がん	0	11	1	6	16	0	9	43
大腸がん	6	10	19	16	16	0	17	84
肺がん	0	0	0	0	12	6	2	20
乳がん	0	11	11	2	0	0	2	26
肝がん	0	0	0	3	0	1	1	5

#### I 定義

- ①集計期間中に退院した患者さんが対象で、実患者数を集計しています。期間中に同じ患者さんが同じがんで入退院を繰り返しても1件と数えます。
- ②「初発」の病期分類は、UICC病期分類に基づいたものです。
- ③集計期間中に「初発」として集計されたものは、「再発」には集計しません。
- ④病期分類が確定される前に亡くなられた場合等は、病期分類は「不明」となります。
- ⑤医療資源を最も投入した傷病名が疑い病名だったものは集計対象から除外しています。

#### II 解説

患者数としては、大腸がんが最も多くなっています。次いで、胃がんと乳がんとなっています。

当院は、内視鏡的治療、腹腔鏡的治療、手術、抗がん剤治療、放射線治療など患者さんに合わせた治療法を選択し総合的に管理しています。

また、緩和ケア病棟を有しており、治療が困難とされたがん患者さんの苦痛を和らげる緩和ケアの体制も整えています。

## ④成人市中肺炎の重症度別患者数

	症例数	平均在院日数	平均年齢
軽症	19	9.6	46.4
中等度	61	22.3	79.3
重症	23	23.0	84.0
超重症	5	33.8	83.2
不明	6	16.3	85.8
合計	114	20.5	75.3

### I 定義

- ①集計期間に退院した患者さんを対象にしています。
  - ②この集計での成人とは15歳以上の患者さんを指します。
  - ③市中肺炎とは、普段の生活の中で罹患した肺炎を指します。
  - ④入院契機傷病名および最も医療資源を投入した傷病名が、『肺炎・急性気管支炎(DPCコード040080)』さらにその中でICD-10コードがJ13～J18であるものが対象です。
  - ⑤重症度は市中肺炎ガイドラインによる重症度分類システム(A-DROPシステム)により分類しています。  
1.男性 $\geq 70$ 歳、女性 $\geq 75$ 歳 2.BUN $\geq 21$ または脱水 3.酸素飽和度 $\leq 90\%$  4.意識障害(肺炎に由来する) 5.sBP $\leq 90$ mmHG
- 軽症: 上記5ついずれも満たさない。  
中等度: 上記1つまたは2つを有する。  
重症: 上記3つを有する。  
超重症: 上記4つまたは5つ。またはショック  
不明: 1～5の項目のうち1つでも不明であったもの

### II 解説

症例数では中等症の割合が最も多く、全体の約5割を占めています。軽症から重症にかけて重症になるほど平均在院日数が長くなり、平均年齢が高くなっています。

## ⑤脳梗塞のICD-10別症例数

ICD-10	最も医療資源を投入した傷病名	発症日から	症例数	平均在院日数	平均年齢	転院率
G45 \$	一過性脳虚血発作および関連症候群	3日以内	25	14.1	72.3	0.0%
		その他	2	8.0	64.5	0.0%
G46 \$	脳血管疾患における脳の血管(性)症候群	3日以内	0			
		その他	0			
I63 \$	脳梗塞	3日以内	114	35.4	77.4	16.7%
		その他	28	39.8	75.3	7.1%
I65 \$	脳実質外動脈の閉塞および狭窄、 脳梗塞に至らなかったもの	-	4	7.8	77.8	0.0%
I66 \$	脳動脈の閉塞および狭窄、 脳梗塞に至らなかったもの	-	1	61.0	55.0	0.0%
I675	もやもや病<ウイリス動脈輪閉塞症>	-	0			
I679	脳血管疾患、詳細不明	-	0			

### I 定義

ICD-10とは、「国際疾病分類・第10回修正版」のことであり、疾病及び関連保健問題の国際統計分類です。WHO(世界保健機関)により公表された分類で死因や疾病の統計、診療記録の管理などに活用されます。

### II 解説

当院では、約8割の患者さんが発症から3日以内に治療を開始しています。迅速に治療を開始することで早期離床に繋がり、早期にリハビリテーションを開始することができます。また、その後の回復期のリハビリテーションでスムーズに移行することにより発症後のADL(日常生活動作)障害が軽減されます。また、当院では急性期医療だけでなく、回復期リハビリテーションを担う回復期リハビリテーション病棟を有しており、総合的な治療管理を行っています。



## ⑥診療科別主要手術の術前、術後日数症例数トップ3

### (消化器科)

	Kコード	名称	症例数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢
1	K7211	内視鏡的結腸ポリープ・粘膜切除術 長径2センチメートル未満 等	183	0.1	1.1	0.0%	69.1
2	K721-21	内視鏡的大腸ポリープ切除術 長径2センチメートル未満 等	38	0.4	1.4	0.0%	68.5
3	K688	内視鏡的胆道ステント留置術	22	3.8	10.9	0.0%	76.6

### (循環器科)

	Kコード	名称	症例数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢
1	K5493	経皮的冠動脈ステント留置術 その他のもの	31	2.4	4.3	0.0%	73.2
2	K5972	ペースメーカー移植術 経静脈電極の場合	21	4.4	18.1	4.8%	78.7

### (外科)

	Kコード	名称	症例数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢
1	K6335	ヘルニア手術 鼠径ヘルニア	84	0.2	2.0	0.0%	66.6
2	K672-2	腹腔鏡下胆嚢摘出術	24	1.3	5.1	0.0%	54.6
3	K719-3	腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術	13	4.7	18.5	0.0%	69.1
3	K718-21	腹腔鏡下虫垂切除術 虫垂周囲膿瘍を伴わないもの	13	0.9	4.2	0.0%	31.9

### (整形外科)

	Kコード	名称	症例数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢
1	K0461	骨折観血的手術 肩甲骨、上腕、大腿	66	5.7	21.1	7.6%	81.7
2	K0811	人工骨頭挿入術 肩、股 等	22	7.6	24.2	18.2%	84.8
3	K0462	骨折観血的手術 前腕、下腿、手舟状骨 等	16	3.8	17.6	0.0%	63.4

**(脳神経外科)**

	Kコード	名称	症例数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢
1	K164-2	慢性硬膜下血腫穿孔洗浄術	15	2.8	17.1	6.7%	78.5

**(眼科)**

	Kコード	名称	症例数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢
1	K28210	水晶体再建術 眼内レンズを挿入する場合 その他のもの 等	256	1.0	1.0	0.0%	77.7

**(泌尿器科)**

	Kコード	名称	症例数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢
1	K80360	膀胱悪性腫瘍手術 経尿道的手術 その他のもの	32	1.0	3.6	15.6%	71.7

**(リハビリテーション科)**

	Kコード	名称	症例数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢
1	K0461	骨折観血的手術 肩甲骨、上腕、大腿 等	15	6.1	76.7	0.0%	83.2

**I 定義及び表の説明**

10症例以上を集計対象としています。(10症例以上を集計対象としているため内科・小児科・産婦人科・耳鼻科・皮膚科・緩和ケア科は集計対象外)  
 退院診療科で集計しているため、必ずしも『診療科』=『手術実施科』ではありません。  
 1入院中で主要な手術1つのみを症例数に集計しているため、手術の実施件数と必ずしも一致するとは限りません。

## ⑦その他

DPC	最も医療資源を投じた傷病名	入院契機病名との異同	患者数	請求率(%)
130100	播種性血管内凝固症候群	同一	1	0.03%
		異なる	3	0.08%
180010	敗血症(一歳以上)	同一	9	0.23%
		異なる	23	0.58%
180035	その他の真菌症	同一	0	0.00%
		異なる	1	0.03%
180040	処置・手術等の合併症	同一	31	0.78%
		異なる	4	0.10%

### 解説

この指標は、医療の質の改善に資するため、臨床上ゼロにはなりえないものの少しでも改善すべきものとして播種性血管内凝固症候群、敗血症、その他の真菌症、手術・処置等の合併症について、入院契機病名(入院のきっかけとなった傷病)の同一性の有無を区別して対象患者数と発症率を示したものです。